



広島国際学院
創立76年



広島国際学院大学
HIROSHIMA KOKUSAI GAKUIN UNIVERSITY

平成十六年度から

大学は大きく変わる！

特集「立町キャンパス」オープン	2・3
CCNAネットワーク試験	工学部 4
インターンシップを体験して	現代社会学部 5
なるほど！体験入学	短期大学部 6
高校から発信	高等学校 7
私の大学生活	8
留学生の思い	8
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	9
プロボクサー誕生	9
シリーズ献血②	10
アーチェリー部の紹介	10
研究室紹介	11
事前教育が実施10周年となる	12

「立町キャンパス」正面

工学部電気工学科 教授 河野健次一撮影

広報

第55号

平成15年10月1日発行

「立町キャンパス」オープン

特集

—— 社会と大学を結ぶ拠点に! ——

9月6日(土)、広島市中心部に、大学の新たな活動拠点として「広島国際学院大学 立町キャンパス」がオープンした。この半年間、開設に向けて急ピッチで準備が進められたが、すでに新聞やテレビでも報道されるなど社会的な関心を呼んでいる。当日は開設式を行った後、「ピアノ寄贈事業実行委員会」よりグランドピアノが贈呈された。海外で活躍されている著名なピアニスト、リサ・中道さんの気品にあふれた演奏とともに「立町キャンパス」がスタートした。



テープカット

施設の概要

広島市中区の電車通りに面した広島朝日ビル1階と地下1階。紙屋町と八丁堀の中程で交通の便もよく、市内屈指の人通りの多い場所である。

次のような設備が用意されている。

- ・ホール (約130㎡、100名程度)
- ・講義室 (30名程度) ホールと連結が可能
- ・会議室 (16名程度)
- ・セミナー室 (12名程度、2室)
- ・ミーティング室 (20名程度)
- ・サロン
- ・プロジェクタ、スクリーンなどのAV機器
- ・ピアノ



リサ・中道さんのピアノ演奏



サロン



平面配置図



ホール

これからの企画と活動

学生・生徒のための「立町キャンパス」であり、ここが教育・研究の場であることはもちろんである。同時に我々の大学・高校が持っている知的資源と学生たちの元気を社会に還元し、地域社会の活性化や大学と高校の交流もめざす多目的な施設でもある。このため、次のような利用計画をたてている。



キャンパス玄関(表通り)

次世代に開く！

学生・生徒への
情報提供と発信拠点

産業界に開く！

地元企業との連携事業

- ・学生、生徒向けの講演会や講習会、ゼミナール
- ・学生の卒業研究発表会や研究紹介
- ・大学院の講義
- ・学生や生徒の発表会、クラブの展示会や大学サークル間の会議
- ・同窓会、卒業生、保護者、留学生の会議や情報交換
- ・就職活動の支援事業
- ・学会・研究発表会
- ・一般の高校生・中学生のクラブ活動の発表会
- ・市民向けの講演会や公開講座・講習会
- ・地域の企業との連携事業

地域に開く！

公開講座の展開

世界に開く！

留学生を通じた交流

文化の発信センターとして

大学の施設としては全国的にもめずらしい地域に開かれた文化の発信センターである。単に教育の場だけでなく、学生、卒業生、保護者、教職員のみなさんのアイデアによって「立町キャンパス」は大学全体と広島を元気にする大きな可能性を秘めている。

ご利用について

「広島国際学院大学 立町キャンパス」
〒730-0011 広島市中区基町13-7
(JR広島駅より市内電車10分 立町電停前)
開館時間 午前9時30分から午後7時30分



くつろげるサロン(ピアノ自動演奏)

休館日 12月29日～1月3日、8月13日～15日、
その他臨時の休館日

会議等で当施設の利用に際しては下記にてご相談ください。
電話 082-212-1651 ファックス 082-212-1652
Eメール tatemachi@office.hkg.ac.jp
ホームページ <http://www.hkg.ac.jp>

企画についてご意見などをお寄せください。また、お近くにお越しの際にはサロンでの休憩や待ちあわせなどでもぜひご利用ください。

工学部 シスコ・ネットワーキングアカデミーとCCNA資格

本年度19名受験16名合格

シスコ・ネットワーキングアカデミーはCisco Systems Inc.が開発した、コンピュータネットワーキング技術を学校で実践的に教えるための教育プログラムである。情報工学科では、平成12年から準備。平成13年4月、広島地域においては先駆けて開講した。

カリキュラムでは、インターネットや企業内ネットワーク（イントラネット）で必須のTCP/IP通信プロトコルの仕組みについて学び、ネットワークの設計やインストール、運用・保守に必要な一通りの技術をマスターできる。ネットワークの設計方法とインストール方法は特に長い時間を費やして教育するカリキュラムが用意されている。

シスコ・ネットワーキングアカデミーを修了すると、シスコ社のベンダー認定資格の1つ、CCNA(Cisco Certified Network Associates)の合格レベルに到達できる。ネットワーク関連の他の資格としては、シスコ社のCCNP (Cisco Certified Network Professor)、CCIE (Cisco Certified Internetwork Expert) などが有名。CCNAはそれらの資格を獲得するための第1ステップである。

本学のアカデミーでは現在までに、アカデミー対応の4科目講義の他に、集中講義、セミナーを通じて、合計37名の学生がCCNAの資格を取得している。また、そのうち4名がCCNPを取得した。



アカデミーでの実験風景



熱っぽく話す安尾さん

OG講演会を開く！ナンバーワンよりオンリーワンを目指して

6月27日、10号館マルチビジョン講義室で工学部おもしろ企画委員会のOG講演会が開催された。電子工学科卒業生の安尾直子さんが、「私的、SOHOとボランティア」と題して講演した。安尾さんはコナミ株式会社、翼サービス近畿株式会社、株式会社システムエイドを経て独立。フリーのクリエイター&プログラマーとして、主にデータベースと制御関連の仕事をしている。そのかわり、専門学校でプログラミングの講師を務め、片上鉄道保存会のボランティアとしても活躍中である。身振り手振りで熱っぽく語った。講演の概要は次のとおり。

会社でいろんな仕事を経験したことが独立に役立った。会社の中で成功するには、自分がいないと仕事にならないほど貴重な存在になることだ。上司から仕事を命令されるのではなく、頼まれるような立場を確立することが重要である。誰よりも優れたナンバーワンになれなくてもよい。自分にしかできない、自分の個性を出したオンリーワンの仕事すること。

独立して働くにあたっては、すべての責任が自分にかかってくると認識すべきだ。何よりも人脈が重要で、学生時代の仲間は今も大事にしている。在学中に遊んだ経験も、年齢の離れた人と付き合う上でよい取っかかりになった。当時は寝る暇を惜しんで遊んだものだ。だから今でも、寝る暇を惜しんで仕事に遊びにボランティアに頑張れるのだ。

学生と学長の対話集会・開催【第一回】

一般の学生にとって、学長や工学部長は直接話す機会も少なく、遠い存在である。しかし大学をよりよい環境とするためには、お互いに率直な意見を交換することが第一である。この趣旨から、学生と葉佐井学長、今村工学部長が膝を交えて話す会が7月4日(金)午後3時から工学部の教室で催された。

本学にはどのような問題点があり、今後どのように改善すればよいのかなどについて、時々笑い声も上がる自由な雰囲気の中で意見を述べ合った。学生は学科や学年にかかわらず参加でき、今回は工学部を中心に22名が参加。学生の立場から活発に大学への疑問や提案を投げかけた。それらについて学長や工学部長も真剣に答え、2時間が短く感じられるほどの熱気に包まれた会となった。

奨学金制度や工学部の改組、最近実施された学内禁煙の問題点、あるいは自転車置き場の舗装の要望など、学生にとって身近で切実な意見も出された。多くの学生から、このような会を今後も続けていく要望がだされ、学生と大学側がたえず意見を交換することの重要性を改めて認識する会となった。



熱く!思いを!

インターンシップを体験して ——就職活動の新たなスタートに



不安と緊張感

現代社会学部3年生 ^{にし もとしょう たろう} 西本昇太郎
(研修先企業 広島ガス株式会社 エネルギー事業部)

私はこのインターンシップに、企業とはどんな場なのかということを知りたくて参加しました。研修先で私が体験したことは決して学生がアルバイトでは体験出来ないことでした。私は営業部を5カ所回り、実際に担当者と一緒にお客様の家に行きました。お客様にどのような対応をすればいいのか、またお客様の反応とはどのようなものなのかを実地体験したのです。営業部の普段の仕事の間近に見ることで、仕事の大変さや面白さ、仕事に対する社会人の意識というものがよく分かりました。また、学校とは違う環

境に入って実習をする中で、今の自分には社会人になるための努力がまだまだ足りず、就職に対する考えが甘いと知ることが出来て本当によかったと思います。

マツダの研修生との交流

——国際交流はフツーに

現代社会学部3年生 ^{はしもとよし み} 橋本嘉美

5月にマツダインターンシップ研修生との交流会に参加しました。シンガポールから来た二人は、大学の卒業単位としてインターンシップが組み込まれ、多様な指定地域のなかから広島のマツダを選んだそうです。半年のインターンシップを経てちょうど帰る時期で、本当にその場限りではありましたが、メール・アドレスを交換しあうなど、国際交流が特別ではないと実感したことが一番の収穫でした。外国人との特別な交流だからとかまえるのではなく、普段どおりに人として関わり合い、素晴らしい時間を過ごせてよかったと思います。



普段どおりに楽しかった

私の研究

子供をとりまく社会の変容

現代社会学研究科博士前期課程一年生

樋野本順子 ^{ひの もとじゅんこ}



私は現在、幼稚園の現職教員との二足のわらじを履いて在籍しています。世間では犯罪事件などのため、子どもの変化がクローズアップされています。しかし、仕事をとおしてみている限り、子どもではなく、社会が変わったのではないかと強く感じていました。この疑問が私を「社会学」の大学院へ進ませたのです。

子どもに関する事件の多発、特に、幼児虐待という言葉に象徴されるように幼児期にまで及んでいます。

毎日幼児と生活をともにしていても、母親の育児意識、地域社会の教育力、少子化による教育システム等、子どもの育成環境の変容を肌で感じています。子どもを変化させる要因である社会とは何か、これを見極めるための分析枠組と方法論を学ぶことで、今、私たちが抱えている教育の問題を具体的に捉える視点を見つけることが可能ではないかと思っています。入学して早や半年が経ち、課題解決にむけて、ハードルは沢山あります。「いまだ道は険し」という状況ですが、大学のスタッフのバックアップで仕事と研究の両立可能な環境が整備されている中、初心を忘れず、頑張りたいと考えています。

今年度より、本学をより一層知ってもらい志願者の理解を深めるために、体験入学を実施した。内容は、自動車の心臓部であるエンジンの分解と組み立て。初めての試みであり、受講生の希望、供試台数、時間配分等不明の部分が多いので、バイク用の50ccエンジンを対象とした。8月9日、岡山、島根からの3名を加え26名が参加して、実習工場で実施。2名1組で指導教員1名がつくという体制で、安全第一で基本的な仕組み、実習内容の講義を受けた後、シリンダ・ヘッドと気化器の分解を始め、進度に合わせて構造や作動原理の説明を受けた。分解、洗浄後、再度組み立てて、最終的にエンジンを始動させた。エンジンがスムーズな回転を取り戻すとどの受講生からも、「やっただー」という叫びと共に、満面に喜びの表情が現れていた。再び全員が一堂に会し質疑応答・意見交換の場を持った際、四輪車のエンジンの分解組み立てがしなかった等の意見も出て和やかな懇談会で終始した。



受講生の目がキラキラ!

昨年より多い参加者!
・オープンキャンパス



8月3日、今年第1回目のキャンパス見学会を開催した。心配された雨もすっかり上がり逆に暑すぎる真夏日。昨年よりも多い150名が参加した。午前中は大教室で全員が本学の概況を聞いた。午後は、「本学の整備士国家試験の合格率は?」「国産車のボディー・カラーで一番多い色は何色?」等のクイズ・ゲームを楽しんだ。その後、自動車総合診断装置の実演やゼロハンカーの製作現場、電気自動車の試乗等をスタンプラリー形式で回り、見学終了者には記念品が手渡された。第2回目は9月28日に実施。

私の目指しているもの — 自動車整備士

はこじょうまりえ
自動車短期大学部2年 箱上 茉莉恵



高校3年生頃から車に興味を持ち出し、この自動車短期大学に入学しました。高校とは違い授業は興味のあることばかりで、勉強が好きになりました。実習も少人数でやるので友達と楽しくできます。入学したての頃は分からないことばかりでしたが、2年生になってからは実習もやりがいが出てきました。先生方はとても優しく指導してくださるし、友達とも助け合って一緒に学んでいけるので、車のことを何も知らなかった私でもここまで頑張れたのだと思います。高校では休みがちでしたが、今では学校に行くのが楽しみになっています。

私は自動車部に入部しているので、放課後はほぼ毎日ピットに行き、楽しくおしゃべりをしたり、作業をしたり、とても充実した日々を送っています。毎年行くサーキットでの走行は学校生活の中で一番の楽しみです。秋にはダート・トライアルもあり、準備や後始末で大変でしたがとても良い経験になりました。高校のときは車が好きな友人があまりいなくて寂しい生活でしたが、本学に入学し、自動車部に入ってからには本当にたくさんの友達、先輩や後輩と仲良くなることができました。

入学した頃はただ自動車が好きなだけで、整備士になろうとは思っていませんでした。でも整備士を目指す友達と一緒に勉強していくうちに、自分もと思うようになってきました。自分が勉強したことを、先生方のように、自動車を知らない人たちに教えてあげたいと思います。今は3月にある国家試験に向けて受験準備を始めています。

私がこの学校で先生方や友達から学んだことは勉強に限らず大変多く、一言では表せないほどです。これからはたくさん学んでいこうでしょう。整備士になりたいという夢をくれたことにも感謝しています。自動車業界ではまだ女性の活躍が少ないけれど、自動車が好きな女性の後輩のためにも男性に負けず頑張りたいと思っています。

堂々 **ベスト4** 進出! —全国高等学校野球選手権広島県予選—

夏の全国高等学校野球選手権広島県予選は、7月15日開幕した。本校は春期大会ベスト8ということで、昨年度に続きシード校として2回戦から出場した。近年力をつけている国泰寺高、古豪の呉港高、強力打線の広高と対戦。いずれも手に汗握る接戦を展開したが、最終的にはシード校の実力で勝利をもぎ取り、見事に3年連続でベスト8入りを果たす。準々決勝は春期大会で県大会・中国大会を制し、今大会で第一シードに位置する瀬戸内高校との対戦であった。苦戦が予想されたが山本投手の力投と打線の奮起で終始リードし、堂々4年ぶりのベスト4に進出した。ついに甲子園が見えてきた。雨で順延になった準決勝の相手は、春の選抜大会チャンピオン・広陵高校である。甲子園優勝投手を打ち崩すことが出来ないままリードを広げられていった。終盤に1点を返し粘りを見せたものの無念の敗退。またも甲子園の夢を果たすことが出来なかったが、観衆に夢と感動を与えてくれた。



ナイスゲームを展開



この応援 元氣!

全日本吹奏楽コンクール中国地区予選
中国大会 金賞受賞



8月1～3日、呉市文化ホールで全日本吹奏楽コンクール県予選が開催された。本校吹奏楽部もA部門（大編成）およびB部門（小編成）に出場した。A部門は金賞を受賞するとともに晴れて中国大会出場権（広島県から4校）を得る。また、続くB部門でも金賞に輝いた。昨年度、全日本吹奏楽大会に出場し、「マルタ賞」を受賞、今年の吹奏楽部定期演奏会ではマルタとのジョイントコンサートを実現するなど、

実力をいかに発揮した成果であった。8月24～25日に倉敷市で行われた中国大会では華麗な演奏を展開したが、全国大会への出場を果たせなかった。本吹奏楽部は100名近い部員を擁し、その練習量と実力で定評がある。これからも活躍が期待される。



9月1日より「校内全面禁煙」になりました。

本校は、9月1日から学校内全面禁煙になりました。
外来者もご協力ください。

広島国際学院高等学校

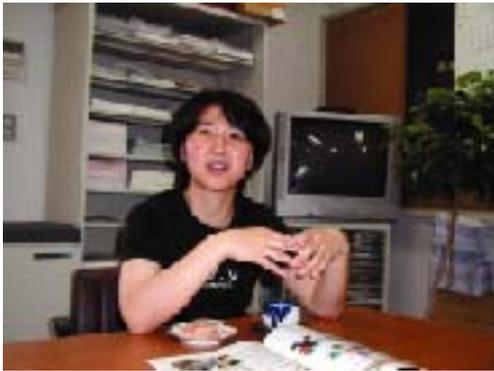
教育環境整備進む
憩いの広場・2階建駐輪場完成!



本校では、毎年教育環境整備を進めている。今年度は旧プール棟を解体し、公園的な広場を作った。グラウンドに建っていた旧プール棟は老朽が激しく、景観も損なっていた。解体整備をすることでグラウンドへの見通しも良くなり、開放感あふれるオープンスペースに生まれ変わった。昼休みや休憩時、放課後には生徒たちの憩いの場になることであろう。また、



1号館西側の自転車置き場を取り壊し、2階建ての自転車置き場（駐輪台数500台）を新築した。自転車通学が多い本校にとって以前からの課題であったが、駐輪台数も確保でき、整然と駐輪できる駐輪機の設置で快適なスペースとなった。



今、目標はつかめた!

この大学に入るとき、少なくとも今から4年前は今の私の姿は全くといっていいほど想像できなかったと思います。高校のころからコンピュータに興味を持ってはいましたが、まだどんな仕事があるのか右も左もわからない状態でこの大学に入学しました。

4年あるからその間に自分が将来したいことが、なにか見つかるのではないかという甘えがあったのです。その考えはすぐに後悔に変わ

自分はどうなりたいのか?

《重くのしかかる自分への問い!》

私の大学生生活

工学部情報工学科4年生

菅由希子

わかって以来、ネットワーク関係の仕事に興味を持つようになりました。NE(ネットワークエンジニア)になって仕事をしてみたいという将来の自分に対する目標が立てられたような気がします。残り少ない大学生活ですが、その間に少しでも多くのことを学んで、来年からの社会人としての生活に備えていければいいなと思っています。

ました。大学というところは高校までのように、何もしないで何かを与えてくれる場所ではなく、自分で何をしたいか、どういう人間になりたいか、きちんと考えていないと何の意味もない場所です。友達は目標が決まっているみたいで、それに向かつて一生懸命がんばっているのに対して、「将来自分はどうなりたいのか?」いざ自分に向かつて問うた時に肝心の目標がない、しかもなんとなくといういい加減な動機で、ここにきた私にとってこれだけ重くのしかかってきた問いはありませんでした。

3年生のときに幕張メッセで開かれたNetworking + Interop 2002に参加して大規模な展示会用ネットワークの構築に携わって以来、ネットワーク関係の仕事に興味を持つようになりました。NE(ネットワークエンジニア)になって仕事をしてみたいという将来の自分に対する目標が立てられたような気がします。残り少ない大学生活ですが、その間に少しでも多くのことを学んで、来年からの社会人としての生活に備えていければいいなと思っています。

留学生の思い

日本に留学できて大変嬉しい!

工学研究科物質工学専攻2年生

楊 巍

私には楊巍と申します。2001年の4月中国のハルビンから日本にきました。現在留学生として広島国際学院大学の大学院で、物質工学を専攻しています。

私が日本に来て感じたことは日本の自然環境が綺麗なことです。緑が多いし、町も川も綺麗です。私はこのように綺麗な環境が大好きです。でも昔はもっと綺麗だったと聞きました。現在は一見、綺麗に見えていても、重金属や有害物質が目に見えない所で増えていることに注目しなければなりません。日本人は皆まじめにゴミを種類によって別々にするのです。燃える物、有害物質を出すプラスチック、金属など再利用できる物は有効に利用するなど大変効果的です。中国は発展中で工場などに対する規制も少なく、現在は日本と比べるとちょっと汚いと思います。将来は日本と同じくらい綺麗になるように、私自身も努力して行こうと思います。

私の将来への希望はまだ具体的に計画していませんが、これからあと1年あります。日本語と専攻を頑張つて勉強します。できれば日本の会社でちょっと働きたいし、日本で習った事を日本で使用してみたいです。あと祖国に帰り、中国が日本みたいに綺麗になるように頑張ります。

日本に留学できて私は大変嬉しいです。勉強しているうちに日本人に色々な事を習うことができます。私の人生にとって大変役に立つことがあると思います。私は日本に感謝しています。

柔らかな笑顔をみせる楊さん



学生時代の想い出と社会人になって思うこと

大学の時もっと勉強しておけばよかった、と思う

工学部電子工学科 平成十三年三月卒業 岡田真理

学生時代の思い出のほとんどは、サークル活動です。4年間、アーチェリー部で過ごし、必要最低限の勉強とアーチェリー以外にはあまり力をいれていませんでした。サークル活動としては、毎日の練習、合宿、試合への参加などをしていました。休みもほとんどないクラブで、練習、合宿は辛いと思うようなことが多くあり、やめたいと思うことも何度かありました。最後に、最後まで続けることができ、たくさん楽しかった思い出になっています。アーチェリーを続けて、集中心、あきらめずに最後までやりぬくことなど、身につけることができた気がします。そして、多くの試合に参加することで、精神的にも強くなれた気がします。大学生活はサークル活動をするので、とても充実したものになりました。



自分らしく努力していきたい

あきらめず最後までやり抜いて！

で、大学の時にもっと勉強をしておけばよかったと思うこともあります。それでもどうにかできていたのは、4年間男の人に囲まれ、負けたくない自分なりに一生懸命過ごしたことが、今の私の自信につながっているからだと思います。これから、いろいろなことがあるとは思いますが、自分らしく努力していきたいと思います。学生時代には、勉強をすることはもちろん重要ですが、勉強以外でも何か興味のあることを、あきらめず、最後までやり抜いて、自分の自信となるものを探すのも大事ではないかと思っています。

プロボクシングテストに合格！

がむしゃらに練習、やはり勝てばうれしい！

工学部電気工学科 四年生 山岡靖昌



就職してもボクシングを続けたい

僕はダイエット目的でボクシングを始めたのですよ。練習は週6回。想像以上に厳しくて、みるみる体重が落ちました。72キロから60キロの減量に成功しました。所期の目的が達成されてなんとなく練習を続けているところに、他の練習生がプロテストを受けるところに、他の練習生がプロテストを受けるという話を聞いたので、そこで僕も次の目標にプロテスト合格を掲げ、合格目指して頑張ろうと決めました。会長にもその気持ちを伝え、一生懸命練習しました。厳しい練習を経てプロテストに合格。プロテストはプロの試合の前座として行われますから、人数は少ないけどお客さんが入ってとても緊張しました。

プロテストに受かったら次は試合です。合格して一ヶ月後に話があり、すぐ試合がしたいと会長に返事しました。練習もこれまで以上に厳しくなり、何度もくじけそうになりました。7キロの減量をしながら練習は倍、もうフラフラでした。試合当日、会場はお客さんでいっぱい。こんなところで試合をするなど想像もできませんでした。出番が近づくにつれ足が震えました。そんな状態でも忸怩なく出番が回ってきます。リングに上がり、ゴングと同時に頭が真っ白になりました。いきなりダウンを取られてしまつて。それで我に返り、試合を進めたのですが、ダウンした分、点数に差がついて判定負け。負けたときの悔しさを知りました。また一からやり直します。がむしゃらに練習し、次の試合で勝ちました。やはり勝てる嬉しいですよね。あと一回勝てば上のクラスにいけるんです。仕事についてもボクシングを続けていきたいですね。



サンドバッグ練習



シリーズ献血②献血の使い道と必要性

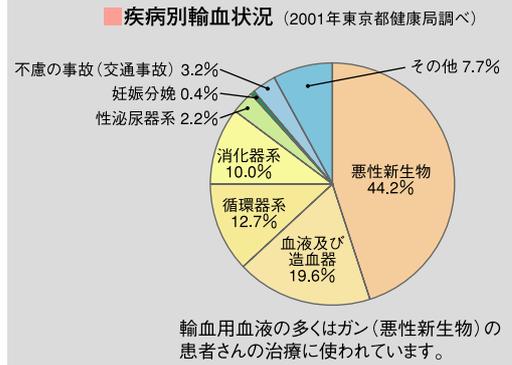
学友会厚生委員会から発信

今回は前号に続いて「献血の使い道とその必要性」について発信します。献血は足りている状態ではなく、広島県は他県からの支援により補われていると前回書きました。

なぜいつも輸血用血液が不足しているのだろうか、と思われる方も多いことでしょう。なぜでしょうか？簡単に言いますと輸血用血液には「消費期限」があるからです。成分ごとに異なりますが、「赤血球」は冷蔵保存で21日「血漿分画製剤」と呼ばれる薬に製剤したもののでも、2年間しか保存しておくことができないのです。

また、少子高齢化も血液不足の大きな原因となっています。手術などで輸血用血液を必要とする人が増える一方、献血の多くを担う若い世代が減っているのです。

さらに、円グラフに示すとおり、癌やいわゆる現代病を治療する先端医療などに、多量の輸血が使われています。国も安全性向上の観点から完全国内自給を目指しています。上記のようなことから血液不足が常態化しているのです。県民、市民の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思います。



献血の意味を納得!



地域のひととの交流も続ける部員たち

アーチェリーとは、簡単にいうと引いて放すだけの単純なスポーツです。でも単純なスポーツだからこそ奥が深く面白いのです！ぜひ皆さんにも的の真ん中に当たる楽しさを味わってほしいと思います。

それと、一番紹介したいことは、我がアーチェリー部は、広島大学の中で毎年トップです。

当面、来年の「王座」という大会で優勝することが目標です。部員一同お互いに切磋琢磨して、この「夢」の実現に向かって精進を続けます。

このたび、初めてアーチェリー部を紹介します。今私達は大会へ向け激しい練習をしているところです。さまざまな方法で体力、技術力、精神力の鍛錬に取り組んでいます。練習日程の中で、毎週金曜日に瀬野公民館で、「瀬野川会」というアーチェリー教室を開いています。この出会いと交流は大切にして、継続していきたいと思っています。興味のある方や話だけでもという人は教室までおいでください。

…奥が深いスポーツ…

「王座」優勝が夢！

広島でトップをゆく

アーチェリー部

健康増進法の施行により、本学院をあげて「受動喫煙防止対策」を推進 ー完全禁煙へ向けて取組中



工学部 電気工学科

わた なべ ま ひこ
渡 邊 真 彦 研究室

本研究室には現在6名の学部生と2名の大学院生がおり、主に分光計測法の応用に関する研究を行っている。

物質に光をあけると、その一部が物質に吸収、反射、散乱し、その結果残った光が物質を透過していく。これらのプロセスは光が当たっている物質の状態に敏感に影響を受けるので、吸収、反射、散乱、透過

それぞれの光の量や状態を計測することで物質の様々な情報を非常に感度よく求めることが可能になる。このような方法は分光計測法と呼ばれ、歴史的にも古くから広く利用されてきた。

本研究室で最近取り組みつつある研究は、水中に存在する微量の菌（大腸菌など）を分光計測法で迅速に検出するというものである。病原性菌が存在する水や食物を摂取しておこる食中毒事故は後を絶たないが、その解決方法の1つに正確かつ迅速な菌体計測・評価システムの開発があげられる。従来からも分光学的な迅速検出に関する研究は盛



研究室オールスタッフ



実験処理

んに行われており、性能の良い計測装置が世の中にあるが、装置が非常に高価で大掛かりなために導入することは困難である。そこで本研究室では試薬や分光・検出系などのコストをできる限り低減し、環境計測などの現場へ簡単に導入できるシステムの構築を目指している。



実験に熱中



現代社会学部

い と う た い ろ う
伊 藤 泰 郎 研究室

私が社会学の中で専門にしている領域は、都市社会学とエスニシティ研究である。「エスニシティ」とは日本語で「民族性」と訳される概念であるが、大まかに言えば「民族」や「移民」に関する研究領域であり、日本でもこの20年ほどの間にかなりの研究の蓄積がなされてきた。

私が学部で学生だった1980年代後半は、日本に来住する外国人が急増し、「外国人労働者問題」がマスコミで頻繁に取り上げられ、「開国」「鎖国」をめぐる様々な議論が行われた時期であった。ゼミの所属学生にスポーツをテーマにする者が多いため、私の専門が「スポーツ社会学」とであると誤解されることも多いが、その頃にこの領域に関心を持って以来、「ニューカマー」の外国人の事例を中心に、日本社会におけるマイノリティについて研究を行ってきた。

広島との関連では、昨年広島市が実施した「外国人市民生活・意識実態調査」に調査委員として関わらせていただいた。アンケート調査と面接調査から構成されているが、私が担当したのは前者のデータ分析であり、調査対象者の概要や社会関係の分析を担当した。

外国人数の急増から20年近くが経過したことで、日本に長期に滞在する外国人が一定の層を形成するようになり、「出稼ぎの外国人労働者」といった見方があてはまらなくなったことが確認される一方、基本的人権や社会的平等への要求が強く存在することが明らかになった。

また、高校教員や研究者を中心とした数人のメンバーで、聞き取り調査などをもとに、広島のある被差別部落の歴史資料集を作成中である。被差別部落の問題に関わるようになったのは広島に来てからであるが、「差別」ということを考える上で、勉強になることが非常に多い。同和対策事業とウタリ福祉対策の関連など、アイヌ民族に関する研究を進める上でも、自分にとって重要なテーマになっている。



研究室紹介

平成14年度の決算については、ホームページでご覧になれます。アドレス <http://www.hkg.ac.jp/~keiri/kessan/>

